

## 令和2年度活動報告

### <近現代の曹洞宗教団と人権問題研究会>

#### ○研究趣旨と本年度研究主題

この研究会では、曹洞宗の寺院と僧侶および寺族を主体とした人権思想とその実践のありかたの基礎づけのための調査研究を進めています。

そのためには、①人権思想の理論とその起源や根拠の再検討、②人権思想の歴史性とくに仏教思想および宗義との比較検討、③前二項にもとづく人権思想の啓発と教育計画策定に向けた提案等を研究主題の大綱とします。

本年度はとくに次の六項目を重点的に調査研究および討議を重ねています。

#### 1. 人権概念の批判的再検討

「人権」<sup>じんけん</sup>「人の基本的権利」これは英語<sup>ヒューマン ライツ</sup>human rightsの翻訳語ですが、この言葉の意味する内容は、この翻訳の当否もふくめ十分に吟味されているとはいえません。そもそも「権利」という訳語じたいが適切ではないという意見が、明治初頭からありました。福沢諭吉(1835-1901)は、「権理」<sup>けんり</sup>「権理通義」<sup>けんりつうぎ</sup>略して「権義」<sup>けんぎ</sup>などの訳語を使用していたのです。人権や人としての基本的権利という概念内容をそのはじまりから再検討しています。

#### 2. 人権思想の根拠と起源の批判的再検討

従来の常識では、人権思想は「自由」「平等」を求める可能性と資格として理解されてきましたが、18世紀末の西欧フランス革命以降の比較的最近の出来事にしかすぎません。いわゆる「人権」という概念として把握されていなかったにせよ、この思想はそんなに浅いものではないのではないか？という疑問を解明するための、人権思想の起源や根拠について研究討議しています。

#### 3. 人権思想と仏教思想および信仰・実践との関係性の批判的再検討

仏教という宗教、とりわけ曹洞宗において、人権思想とその実践がとても大切なことは論を俟ちません。しかしながら、そもそも外来の思想であった人権思想が、本質的に仏教の教義と信仰とどうかかわっているのかについては、十分に解明されているとはいえません。

人権と仏教との関係性について、従来のさまざまな見解も含め、再検討を加えていきます。

#### 4. 曹洞宗の歴史なканずく近代現代における人権思想の理解と受容の調査

曹洞宗の機関誌または公刊物のなかで、「人権」という思想が初めて紹介されたのは、明治34(1901)年11月の『宗報』第117号の「説教」欄と思われませんが、その概念や用語の初出の年代は不明です。この研究会では、下記の関連する調査研究の一環として、明

治期曹洞宗の人権思想の実態と傾向を明らかにしたいと考えています。

#### **5. 曹洞宗の機関誌・公刊媒体の資料収集と総目次作成にもとづく社会的差別および人権思想の再考察**

曹洞宗の機関誌・広報誌として、『宗務局普達』『宗報』『曹洞宗報』があります。これらの総目次とデータベースを作成し、曹洞宗における差別と人権思想問題を客観的に説明していきます。

#### **6. 関連する調査研究について**

差別戒名の指導書『禅門小僧訓』の原本と推定される写本が発見されました。この文献の解析を進め、その成果を人権学習に反映できるよう、人権擁護推進本部とも連携していきます。